

墓参りに行くこうと思っても、なかなか腰があがらない。我が家の墓は東京の多摩墓地なので遠過ぎる。だが友の墓は、近い所が多い。

● 梅の里高見の墓地を尋ねれば遙かにたゆとう春の海見ゆ

曾我の里にある瑞雲寺には廣瀬君が眠っている。墓は丘の中腹にあり、非常に眺めがよい。梅の季節には必ずこの墓地を尋ねることになっている。

● 我が友の墓石に彫りし三文字は「無一物」なり生きざま語る

廣瀬君はインドを旅行中に「人間のあり方」に疑問を抱き、一九九二年に脱サラして岩手県沢内村に単身で住み込んだ。そこで彼はさらに農薬による汚染と自然破壊という問題に気が付きNPO法人で活動を始めた。「小田高通信二号」にその詳細が語られている。

● 友眠る蓮華寺の偈に曰く生を空しうすることなかれ

永らく小学校の教諭や校長を務めた木村晋一君が眠る蓮華寺は、千代小学校と中学校に隣接している。彼は還暦を迎える直前に心筋梗塞で亡くなった。余りにも早い死だった。

● 新らしき友の墓石を苔生し代々の先祖の石塔囲む

木村家はこの地で長らく続いてきたのだろう。字が消えてしまった古い石塔が友の墓石を取り囲んでいた。

鳥取

● 久々に米子市へ出張した。米子は日本海に面した街だから、今時分は寒く雪が降る。

● 鄙^{ひな}びたる空港なれど飛行機を導く人に変わりはなし

粉雪が舞う空港で、着陸した旅客機を定位置に誘導するマーシャラーは、数センチの単位で巨大な航空機を誘導して止める。この仕事は大空港でも小空港でも変わる事はない。

● ガラス隔て雪はヒラヒラ舞い踊り空旅びとのころを冷やす

外へ出たら寒いのだろうな。慣れた旅びとは屋内ではTシャツ一枚。

● 薄紅の梅の花びら張付きし車の窓に粉雪かかる

梅の木は季節に違わず咲きはじめる。だが北から流れてきた雪雲は容赦なく雪を降らせる。